

はじめに

金沢大学教育学部附属中学校
校長 諸岡 康哉

社会の変化は年々そのスピードを加速化させてきています。国をはじめ様々なレベルで時代に対応した教育政策が提案され、教育改革が進められています。時代に対応し、主体的に生きていくことのできる生徒の育成は、いつの時代にあっても私たち学校現場の大きな課題となってきました。

この現代的課題を意識し、本校においては、平成14年度から、3年間にわたり「21世紀を担う生徒の育成を目指して」という主題の下で実践研究に取り組んできました。さらに昨年度からは「共に学ぶ生徒の育成を目指して」という主題を新に設定し、他者とかかわりながら共に問題解決にあたることのできる生徒の育成を追究してきました。世界の各地では今なお多くの紛争が起きてきております。社会が多様化する中で、合意を形成していくことがいかに困難かを示しています。その意味では、生徒たちに他者を理解しながら、共に問題解決にあたることのできる力をつけていくことは、世界的、現代的な喫緊の課題でもあるといえます。

本年度は、「異学年・異校種間交流授業を通した学び」を副題として設定しました。同一学年だけの学びではなく、「異学年の学び」、また、同一キャンパスに小学校、高校が隣接しているという附属学校の特質を生かし、さらに附属学校が設定している中期目標も念頭に置きながら、「異校種間での学び」を研究することにしました。異学年での、さらには異校種間で授業を行うことで、同学年の学びからは見えてこない共に学ぶことの特質が明らかになったり、異学年・異校種間での授業体験が日常の同学年授業によい影響を与えるのではないかと仮説的にとらえています。

しかし、異学年や異校種間での授業にとりくんだ先行実践や先行研究はほとんどなく、多くの問題に直面しております。研究発表会では、授業の一端を公開し、皆様方の忌憚のないご意見やご示唆をいただければと存じます。

最後になりましたが、教育研究発表会の開催にあたり、ご支援をいただきました石川県教育委員会、金沢市教育委員会に対し厚くお礼申し上げます。また、各教科別分科会で助言者及び司会者をお引き受けくださいました公立中学校および金沢大学教育学部の諸先生方に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年11月16日